

「計画骨子案」に対するご意見【部会開催日：令和2年11月2日（午前：県民部会、午後：産業部会）】

1 県民部会

発言者 (発言順)	発言概要 ※ページ No は計画骨子案のもの
有路委員	リユース・リサイクルは手間がかかり、PTAによる資源回収も減少。しかし、やっていく必要
伊藤委員	市町村でリサイクルできるもの・できないものが違っている（卵パックなど）。できるものを発信していくことが必要。
岡崎委員	県の取組について、必要性などが県民に伝わっていない。
河合委員	(1) コロナ対応はよい。 (2) プラごみ処理に係る企業への義務化が行われる。支援の強化が必要。 (3) 公文大の食ロスへの取組について、若い人にも関わってもらうのはよいこと。庄内はフードバンクがないので協力を。
横尾委員	(1) スーパーの回収やポイント還元などリサイクルの取組が進んでいるが、もっとたくさんの取組みを。 (2) アドバイザーやコーディネーターの話聞くのはよいこと。
原田委員	市町村との連携として、積極的な支援を。
細谷委員	若いお母さんには難しいことよりも、目の前のこれにこうしようとするのが必要。〇〇ごみについてこうすれば減るとか、分別するとどうなるかとか、これをこうするとごみが減るなど。大切に思っているお母さんも多い。
高見委員	(1) PTAで3010運動の声掛けをするときに、細かく書かれているチラシを渡せるとよい。 (2) SNS、ウェブページ、専用ウェブサイトなど用語の統一と、3R、PCBなど専門用語は注釈を。 (3) すべての人がスマホやPCを持っているわけではない。聞く耳をもってもらえる方法を。
佐藤県民部 会長	(1) 出前講座の活性化を。この教科（総合、理科、社会、家庭等）のこの単元で使えるなどを学校に示すとよい。 (2) 社会人間近の高校生への啓蒙が重要。 (3) 本会議に高校からも入ってもらうよう検討を。 (4) 全国一ごみの少ない県を目指すのはよいこと。全国1位の長野県の取組みの特徴を示すことも。

## 2 産業部会

発言者 (発言順)	発言概要
阿部委員	※ページ No は計画骨子案のもの (1) P C B 廃棄物の法定期間を明記すべき。 (2) 海岸清潔度を明示するとよい。 (3) 資源化率とリサイクル率の用語統一 (骨子案 P19)。 (4) 産廃将来予測の説明と、H21 以降のデータの記載を (骨子案 P20)。 (5) バイオプラスチックの毒性は変わらないという研究者もおり、記載するのはいかがなものか (骨子案 P23)。
有海委員	当会の会員から、フードバンクの利用方法が分からないという声を聞く。
川口委員	(1) 産廃である発泡スチロールを客から預かってくることが多いが、製造業者の責任という報道を最近見たが、今後の県の方向は。 (2) 「リサイクル等循環型産業を振興」が分かりにくい。
原田委員	数値目標を実現するためにどのようにするとよいかの説明が必要。
長谷川委員	(1) 県民がどのレベルでどういうことをやれば目標を達成できるということを示す必要。 (2) オンライン環境展などをどんどん行うべき。余りそうな食材を登録して SNS で安く購入できるという報道もあり、オンラインで勉強できるシステムを。
庄司委員	(1) 構成はこれでよい。 (2) 災害廃棄物が一般廃棄物の量に含まれているとすれば、別紙にするなど分かりやすくすべき。 (3) 雑がみ回収は古紙業者がいないと廃棄物になる。雑誌として扱っている県もあるようなので確認を。
長谷川委員 (JC)	賞味期限・消費期限の違いの更なる P R が必要。
鈴木委員	バイオマスプラスチックへの切り替えを進めるべき。
黒澤産業部 会長	(1) B C P 策定への支援をお願いしたい。 (2) 目標値の達成に至るプロセスを記載すべき。例えば海岸清潔度や食品ロスなど。